

# 武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行

見る／学ぶ／訪ねる／

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10

【電話】 042-323-4103 【FAX】 042-300-0091

【E-mail】 museum@city.kokubunji.tokyo.jp

【HPアドレス】

http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2026.2  
第59号



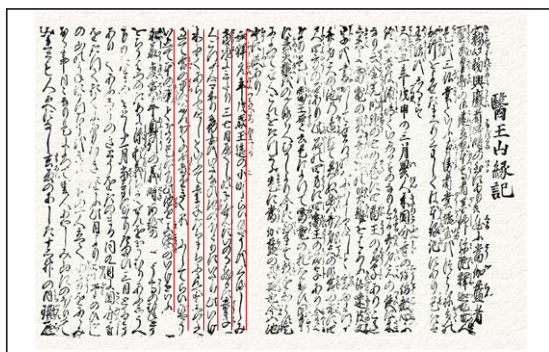
## 12年に一度の真姿弁財天ご開帳 (東京都指定名勝 真姿の池湧水群)



真姿弁財天 (2022年撮影)

都指定名勝で市民の憩いの場としても大切にされている真姿の池湧水群。環境省選定名水百選、東京の名湧水 57 選の1つでもある湧水群に隣接した真姿の池の中島に、「医王山縁起」の中で「宮」と記された祠があり、一般に芸能の神様、水の神様として信仰されてきた弁財天が祀られています。

寺社の創建の由来や霊験話を記した「医王山縁起」には、真姿の池の名前の由来も紹介されています。その部分を意識すると「嘉祥元年(848)、病に苦しんだ玉造小町が国分寺へ訪れ二十一日間薬師如来の前で祈りを捧げた。すると一人の童子が現れて池に案内し、池で身体を清めるよう伝えて姿を消した。しばらくすると祠の中から音楽の響きが聞こえてきた。まもなくして、小町の重い病は治り、真の美しい姿に戻った。



「医王山縁起」

赤線を引いた部分に「真姿の池」の伝説について書かれています。建武2年(1335)7月の年記がある「医王山縁起」の版木は武蔵国分寺跡資料館の展示室2に展示され『国分寺市史料集(III)』に翻刻を掲載しています。



真姿弁財天ご開帳当日 (2025年11月8日撮影)



このことから、この池は真姿の池と呼ばれるようになった。」とあります。

現在の祠は昭和52年(1977)に旧来の建物規模を踏襲して再建したと考えられ、池の弁財天は国分寺の薬師如来と結びつけて信仰を集めました。玉造小町のいわれから病気平癒の祈願や美人祈願に人びとが訪れるだけでなく、江戸時代の終わり頃からは養蚕を行う人びとにも盛んに信仰されました。弁財天の使いである白蛇が蚕を食べるねずみの天敵だからです。

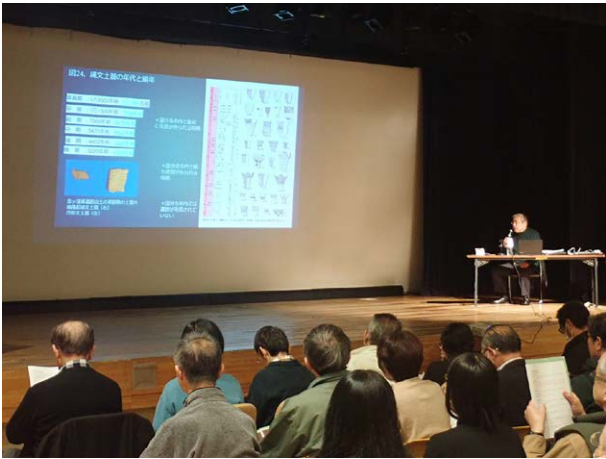
弁財天の開帳の記録は古く安政5年(1858)の記録が残り、明治14年(1881)には開帳に合わせて芝居興行がでるほど賑わいをみせたことがわかります。

江戸時代後期から現在に至るまで、開帳は祠を大切に管理し保存してきた所有者様が12年ごとの巳年に行い、厨子に納めた本尊・弁財天が公開されてきました。

ご開帳の年にあたる令和7年、所有者様を中心に実行委員会が結成され、11月8日(土)・9日(日)にご開帳と真姿音楽祭と銘打つコンサートを実施しました。9日におたかの道湧水園で予定していた野外コンサートはあいにくの雨のために国分寺市役所のロビーに場所を移しましたが、たくさんの観客が集まり奏者の音楽を楽しみました。ご開帳は二日間にわたり、国分寺市・国分寺市教育委員会・国分寺市観光まちづくり協会の共催のもと、市民をはじめ約2000人が訪れました。普段は静寂に包まれている真姿の池周辺は、この貴重な機会に本尊弁財天の姿をひと目見ようとする人びとで大きな賑わいをみせました。(渡邊 典子)



## 歴史講演会「国分寺市の狩人たち」開催報告



市内出土の土器を紹介する上敷領氏

令和7年11月30日に、旧石器時代の専門家であり市内の遺跡調査にも豊富な経験を持つ上敷領<sup>かみしきりょうひまし</sup>久氏を講師に迎え、歴史講演会「国分寺の狩人たち」を開催しました。旧石器・縄文時代をテーマとした今回の講演には、多くの方が関心を寄せ、140名もの参加がありました。

講演では、ご自身が携わった発掘現場の写真や図版をスライドで紹介し、国分寺市域の地理的特徴や、各時代の環境、当時の人々の暮らしについて分かりやすく解説していただきました。講演を通して、このまちに暮らし

た先人たちの姿が浮かび上がりました。また、質疑では、石器の産地分析をはじめ、多喜窪遺跡の集落の範囲、遺跡と湧水源との関係など多様な視点から質問が寄せられ参加者の関心の高さがうかがえました。

【参加者アンケートより】

・思った以上に多くの遺跡があり驚きました。まだまだ調査の余地がたくさんあるとの事で、これからの動向にも注目していきたいと思います。(30代)

・旧石器・縄文時代の多くの遺跡の紹介をしてくださって

全体像がつかみやす

かったです。石器の

変化、土器の変化、

生活様式の変化等、

豊富な発掘体験から

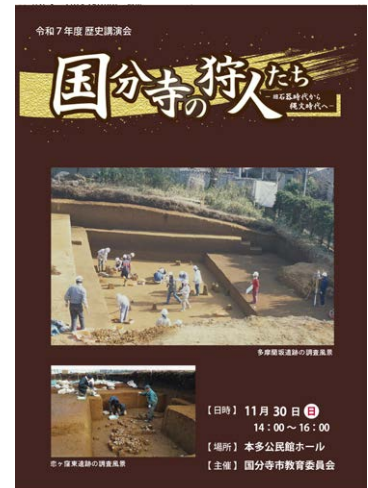
お話し下さり大変勉

強になりました。是非

現地を歩いてみた

いと思いました。

(60代)



配布資料

## 秋季展示「発掘された国分寺市 2025」開催報告

武蔵国分寺跡資料館では、これまで「発掘された国分寺市 2021」「同 2023」として発掘調査の成果展示を行ってきました。今年度は、令和3～4年度に実施された発掘調査の成果を紹介する秋季企画展「発掘された国分寺市 2025」を、令和7年10月18日から12月7日まで開催しました。

小学生の校外学習で資料館を訪れた子どもたちは、身近な場所に遺跡があることに驚いたり、発掘調査で使う道具や、普段は目にすることのない計測器に興味津々の様子でした。また、今年度は新たな取り組みとして、館内のデジタルサイネージで遺跡地図 GIS を用いた市内遺跡の分析事例を紹介しました。分析事例の提供は、「考古学ビッグデータの統合と3D-GISによる古代寺院立地・造営・景観論」※を研究されている野口淳氏（公立小松大学次世代考古学研究センター特任准教授）にご協力いただきました。

発掘調査で見つかった遺物は、報告書にまとめられた後収蔵庫で保管されるため、一般の方が目にする機会は多くありません。今後も、調査成果を広くお伝えする展示を定期的開催していきたいと考えています。(酒井 美帆)

※日本学術振興会科学研究基盤研究 (B)24K00142



発掘調査の道具の紹介



デジタルサイネージコーナー

## 「昔のくらしと道具」炊事にまつわる道具

小学3年生は3学期に「昔のくらしと道具」を学び、地域で使われていた昔の道具に触れる機会があります。本号では、かまどや釜など、炊事に使われていた道具をご紹介します。

多摩地域の農村では、電気やガスが普及する以前、各家庭でかまどや囲炉裏を使って煮炊きをしていました。お米を研ぐときには、土間の一角に設けられた「流し」を使い、水道がなかった時代には、その横に置いた水甕に井戸から汲んだ水をためて利用しました。お米を研いだあとは、胴部に羽状の縁がついた釜をかまどに掛け、木製の蓋をして炊きます。市内の一般的な農家では、土間に土製のかまどが据えられており、ヘツツイとも呼んでいました。戦後になると、生活改善の取り組みの中で煙突を備え、燃焼効率を高めた改良かまどが広く使われるようになりました。

炊き上がったご飯は蒸らしたあと、木製のおひつ（またはオハチ）に移します。寒い季節には、稲藁で編んだおひついれ（オハチイレ）に入れることで、ご飯のあたたかさを保つことができました。

本号で紹介した、釜、おひつ、おひついれの3点は、

国分寺市民俗資料室（国分寺市本多5丁目）に保管・展示しています。（酒井 美帆）

### 【参考文献】

- ・国分寺市教育委員会市史編さん室編集・発行『国分寺市の民家』1996年
- ・小川直之ほか編著『多摩民具事典』たましん地域文化財団、1997年
- ・小泉和子『新装版 昭和台所なつかし図鑑』平凡社、2023年

### 【国分寺市民俗資料室】

見学は事前申込制です。見学希望日の3日前までに電話にて。申込先：042-323-4103（武蔵国分寺跡資料館）



かまど（旧加藤家：多摩市）

煮炊きをするための設備、粘土質の土と藁をまぜてつくられる



かまど

かまどに架けられるように羽がついていることから羽釜とも呼ばれる



改良かまど（『国分寺市の民家』より）

排煙用煙突、燃料を支える部分の改良などで熱効率を高めたかまど



おひつ

炊きあがったお米をいれておく容器、スギやヒノキが使われ適度な水分を保つことができる



おひついれ

保温を目的とした容器、おひつを入れ隙間に布団や毛布を詰めて使う

## INFORMATION

### 市史編さん 歴史講演会「古代国分寺の謎」



国分寺とはいかなる寺院なのか。国分寺の始めと終わり、真の建立発願者、建立の目的など、広く全国の国分寺の動向から、武蔵国分寺について考える講演会を開催します。

【日時】令和8年3月1日(日) 午後2時～4時

【講師】荒井 秀規(明治大学兼任講師)

【場所】リオンホール(国分寺市本町3-1-1)  
cocobunji WEST 5階(cocobunji プラザ内)

【定員】150名

【申込】右LoGoフォームから(こちら→)  
定員になり次第、締切らせていただきます。

【問合せ】国分寺市教育委員会市史編さん室  
電話 042-571-7815(月～金・午前9時～午後5時)



### 東京都公文書館・市教育委員会共催 ミニ企画展



国分寺市域の小学校の成り立ちを紹介するミニ展示を開催します。東京都公文書館が所蔵する公文書、市域に残る資料などを展示します。

【開催期間】令和8年3月21日(土)～5月19日(火)  
午前9時～午後5時(最終入場は午後4時30分)

【会場】東京都公文書館  
常設展示室及び研修室周り壁面展示コーナー

【休館日】日曜日・祝日、3月31日(火)、4月15日(水)

【入館料】無料

【問合せ】東京都公文書館  
電話 042-313-8450(月～土・午前9時～午後5時)

### 史跡地最寄りの公衆トイレを改修しました

国分寺墓地に隣接する公衆トイレの改修工事が令和7年8月31日に完了し、ご利用いただけるようになりました。



### 来館者数

多くのご来館ありがとうございました

2009年10月18日～2025年12月末日

来館者数累計 213,109名

【10月～12月の学校見学】

	学校	人数
小学生	10	1,054
中学生	2	8
高校生	2	21
大学生	4	45

月	来館者数	開館日数
10	1,618	27
11	2,209	26
12	804	24
計	4,631	77

【来館校】市立一小、二小、三小、四小、六小、七小、八小、九小、十小(6年生)、板橋四小、市立二中(1年生)、東京電機大学中学・高等学校、創備高校、東京経済大学、大正大学、淑徳大学、聖徳大学

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

### 武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内 ※駐車場はありません  
 【電車】○JR国分寺駅下車/徒歩約20分 ○JR西国分寺駅下車/徒歩約15分

【バス】国分寺駅下車  
 ○「国分寺駅西」より国分寺市地域バス『ぶんバス』  
万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分  
 ○「国分寺駅南口」より『京王バス』  
系統番号(寺83)・(寺85)乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分  
 西国分寺駅下車  
 ○「西国分寺駅東」より国分寺市地域バス『ぶんバス』  
万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分

■開館時間  
午前9時～午後5時(入園は午後4時45分まで)

■休館日  
毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)  
年末年始(12月29日から1月3日まで)  
※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料  
資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)  
一般……………100円(年間バスポート1,000円)  
中学生以下……無料

【入園料の減免規則があります】

- (1) 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
  - (2) 身体障害者等及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
  - (3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



ホームページ  
二次元バーコード